

今日のトピック 米国の金融政策(2014年9月) 10月会合でQE終了

ポイント1 QEを月額150億米ドルへ縮小

次回10月会合でQE終了

- FRBは、9月16日～17日のFOMCでQEの縮小を決定しました。10月以降の資産購入額は、長期国債月額100億米ドル、住宅ローン担保証券(MBS)同50億米ドルの総額150億米ドルです。
- 声明文では、雇用環境の改善と物価の上昇の見通しが幅広く裏付けられるならば、次回10月のFOMCでQEを終了するとしました。

FOMC(9月16日～17日)での資産購入額の変更内容

(億米ドル)

		変更前	変更後	差額
資産購入額(総額)		250	150	▲100
内訳	長期国債	150	100	▲50
	住宅ローン担保証券(MBS)	100	50	▲50

(出所)FRBの発表を基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2

低金利政策を「相当期間」維持する方針を据え置き

FFレート見通しは前回より上振れ

- 声明文では、「依然として未稼働の労働資源が著しく残っている」ことや、現在の低金利政策を「相当期間」据え置くと文言を含め、ほとんどの表現が据え置かれました。
- 同時に発表された3カ月に1度の経済見通しでは、2014年、2015年のGDP成長率や失業率が若干引き下げられたほかは、ほぼ据え置かれました。一方、FFレートの見通しでは前回と比べ、予想の中央値が若干上振れ、2015年以降全体的に利上げペースが若干速くなると予想されています。

ドル円レートと政策金利の推移



(注1) データは2007年1月5日～2014年9月17日。週次データ。

(注2) 2008年12月以降のFFレートはターゲットレンジ0.00%～0.25%の上限を表示。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

2015年後半以降の利上げ開始見通しに変更はなし

- FFレートの見通しで、2015年以降利上げペースの予想が若干上振れたことから、市場では一段と円安ドル高が進み、国債利回りが上昇しました。日本時間18日の市場でもこの流れが続き、ドル円レートは108円台後半(16時時点)とリーマン・ショック前の水準に上昇しました。今後の米国景気の拡大や金利上昇を織り込んだ動きと見られますが、日米の金融政策の方向性の違いなどが

今後も円安ドル高圧力となると考えられます。

- 今回の声明文によると当面低金利政策が維持されると見られます。その後は「雇用の最大化」と「物価上昇率2%」というFRBの2大使命に向け、雇用関連指標や物価動向、金融市場の状態などが幅広く点検され、2015年後半以降に利上げが行われると見込まれます。

ここも チェック!

2014年09月11日【デイリー No.1,950】為替市場の最近の動向

2014年08月27日【デイリー No.1,941】最近の指標から見る米国経済(2014年8月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。